畜産業における労働災害防止について

鹿屋労働基準監督署

畜産業では、家畜との接触や機械設備への巻き込まれにより、重大な労働災害が発生しています。

また、夏季の高温化に伴う家畜の暑熱ストレスや作業者の熱中症リスクも高まっています。

家畜の特性を理解し、適切な設備管理と暑熱対策を行うことが重要です。

1　家畜との接触災害を防ぎましょう

牛や豚は通常はおとなしい個体であっても、驚いたり興奮したりすることで突発的な行動をとることがあります。

特に注意が必要な作業

・家畜の移動や選別
・治療、注射、保定作業
・分娩前後の母畜や子畜がいる場所での作業
・出荷作業

牛や繁殖豚などの大型家畜は体重が数百キログラムに達するため、体当たり、圧迫、踏み付け等により重大災害につながるおそれがあります。

安全対策

- 単独作業を避ける
- 退避経路を事前に確保する
- 家畜を大声や急な追込みで刺激しない
- 保定柵（設備）を適切に使用する
- 作業前に家畜の健康状態や行動を確認する

2　暑熱ストレスによる家畜の行動変化に注意しましょう

高温環境では、家畜に次のような変化がみられます。

- 呼吸数の増加
- 落ち着きのない行動
- 採食量の低下
- 異常な興奮や神経質な反応
- 開口呼吸（特に豚）

暑熱ストレスを受けた家畜は、不快感や疲労により、普段はおとなしい個体でも予測できない行動をとることがあります。

暑い時期の作業のポイント

- 家畜の移動や治療は早朝又は夕方の比較的涼しい時間帯に行う
- 呼吸が荒い、落ち着きがないなど熱ストレスが認められる個体への作業は慎重に行う
- 必要に応じて作業を延期する

3　豚舎の暑熱対策を進めましょう

豚は発汗による体温調節能力が低く、暑さに弱い動物です。

暑熱ストレスの軽減には、次のような対策が有効です。

（1）換気と送風

- 換気扇や送風機を適切に運転する
- 豚のいる高さで風が流れる環境を整える
- ファンやフィルターを定期的に清掃する

（2）飲水の確保

- 給水設備の故障や詰まりを点検する
- 十分な飲水を確保する

(3)遮熱・冷却

・ ミスト設備を活用する(換気を併用し、舎内の湿度上昇を防止しましょう)
・ 屋根散水を行う
・ 遮熱シートや断熱材を導入する

(4)飼養管理

・ 給餌時間を早朝や夕方へ変更する
・ 過密飼育を改善する
・ 休息スペースを確保する

4 機械設備・車両による災害を防止しましょう

畜産業では、次のような設備によるはさまれ・巻き込まれ災害が発生しています。

・ 牧草ベール梱包機
・ コンベヤー
・ 飼料搬送設備
・ 撹拌機
・ ベルト・プーリー
・ フォークリフト
・ ホイールローダー

特に機械の点検、清掃、調整、資材交換等の非定常作業時には災害が発生しやすくなります。

安全対策

・ 点検、清掃、調整、資材交換等の作業前には運転を停止する
・ 主電源を遮断する
・ カバーを外したまま運転しない

・　危険箇所に身体を近づけない作業手順を定める
・　異常がある設備を放置しない
・　作業手順を教育する

資格管理とリスクアセスメント
・　作業を変更した場合や設備を更新した場合には、リスクアセスメントを実施する
・　フォークリフト、ホイールローダー等については、有資格者が運転する
・　作業計画を定め、接触防止措置を講じる

5　火災・溶接作業による災害を防止しましょう

畜産施設では、豚舎や牛舎の補修等のためにアーク溶接作業が行われることがあります。

溶接作業では火花が周囲の可燃物に着火し、火災につながるおそれがあります。

安全対策
・　溶接作業前に周辺の可燃物を除去する
・　火花の飛散範囲を確認する
・　必要に応じて散水等を行う
・　消火器を準備する
・　保護具を着用する
・　作業手順をあらかじめ定める
・　溶接作業終了後も火種の有無を確認し、火気監視を行う
・　可燃物の近くで作業する場合は火花受けシート等を活用する

6　作業者の熱中症対策を徹底しましょう

畜舎内は高温多湿となりやすく、熱中症リスクが高い環境です。

熱中症の自覚症状がある者又は熱中症のおそれがある者を発見した場合に、速

やかに報告できる体制を整備するとともに、緊急時の対応手順をあらかじめ定め、関係労働者へ周知しましょう。

特に次のような場合は注意が必要です。

・ 畜舎内の換気が不十分な場合
・ 高温多湿環境で長時間作業する場合
・ 家畜の移動や治療など接触作業が多い場合

熱中症予防のポイント

・ WBGT（暑さ指数）を確認する
・ こまめに水分・塩分を補給する
・ 冷房設備や休憩場所を確保する
・ 空調服等を活用する
・ 作業時間を見直す
・ 暑熱順化に配慮する

7 外国人労働者・高年齢労働者への配慮も重要です

畜産業では外国人労働者や高年齢労働者が従事する事業場も多くなっています。

外国人労働者に対しては、母国語又は理解可能な言語による安全衛生教育の実施や、イラスト・写真を活用した分かりやすい指導を行いましょう。

また、高年齢労働者に対しては、加齢に伴う身体機能の変化に配慮した作業方法や作業環境を整備しましょう。

配慮事項

・ 理解しやすい言語や教材で安全衛生教育を実施する
・ イラストや写真を活用して危険個所や作業手順を周知する
・ 高年齢労働者の身体機能の変化に配慮した作業方法とする
・ 無理のない作業配置や複数人作業を検討する

8　安全衛生管理体制を整備しましょう

- 衛生推進者等を適切に選任する
- 定期健康診断を実施する
- 健康診断結果について医師の意見を聴取する
- 作業に必要な資格・技能講習の受講状況を管理する
- 化学物質管理を実施する
- リスクアセスメントを実施する
- 災害発生時の対応手順を整備する
- 作業開始前に危険予知活動（KY 活動）や作業前ミーティングを実施する
- 安全衛生教育を計画的に実施する

事業者の皆さまへ

畜産業における労働災害の多くは、家畜の行動特性の理解、機械設備の適切な管理、暑熱対策及び安全な作業手順の徹底により防止できます。

リスクアセスメントを実施し、職場の危険を把握・低減して、安全で健康に働くことができる職場づくりを進めましょう。